

資料の読み書きと教育

Object based Studies and Educations

登壇者：

松隈 洋（建築史家／京都工芸繊維大学デザイン・建築学系／美術工芸資料館教授）

渡部 葉子（近現代美術／慶應義塾大学アート・センター教授）

石谷 治寛（芸術史／京都市立芸術大学芸術資源研究センター研究員）

モデレーター：伊村 靖子

テーマ

資料はさまざまな解釈や研究のプロセスを経て活用されることにより、新たな意味を持ち始めます。既存の歴史観や制度に対する批評的読解を促し、次の研究や表現へとつながる循環を、私たちはどのように生み出せるのでしょうか。大学における建築の模型制作による教育、展覧会研究（Exhibition Studies）、パフォーマンス作品の検証を通じた美術制度の問い直しというそれぞれの立場から、各研究者の視点を鮮やかに浮かび上がらせてます。



国内外に芸術資源を扱う機関はそなりに存在するが、母体とする組織の違いから、その連携や資料の共有のあり方は模索中であるといえるだろう。機関の特性、研究者の個性、資料の位置付けなど、現場の情報共有を通じて、大きな枠組みで制度設計を社会に提案していく必要がある。